

3年次ゼミで学ぶこと

【インドネシア語専攻で勉強する人のために】

2年生のみなさんは、2学期になると、3年次に所属するゼミを決めなければなりません。

3年次のゼミの大事な目標の一つは、4年次に卒業論文(または卒業研究、以下、卒論)を作成するための基本的な技法を身につけることです(なお、もう一つの大事な目標は、対象となる地域—インドネシア—を理解することです)。

ここでは、とくに基本的と思われる技法の概要を書き出しておきます。これらの技法は以下のよう
にいくつかのグループにまとめることができます。

1. 発想にかかわる技法

卒論作成の全般にかかわる技法ですが、とくに、卒論のテーマを考え、具体的な構成を考えると
きに、必要となります。この部分では、ロジカル・シンキング、クリティカル・シンキング、ブレイン・
ストーミング、KJ法といった、発想法にかかわる技法が役に立ちます。また、卒論のテーマは、
「○○における□□について」という体言止めにするよりも、「なぜ○○は□□か?」という疑問形にする方
が生産的であることも覚えておきましょう。

2. 論文の作成にかかわる技法

卒論という最終成果を作成するために、かならず身につけておくべき技法です。論文の構成も理
解しておくべきですが、とくに、1) 参考文献リストを書く方法、2) 正しく引用をする方法、の2点は
絶対におさえておく必要があります。

3. 論理的な日本語を書く技法

論文の作成にかかわる技法ですが、これだけの独立した技法と考えた方がいいでしょう。大きく
分けると、1) 悪文でない日本語を書くという、文レベルの技法と、2) パラグラフ単位で文章を組
み立てるといふ、文章レベルの技法に分けることができます。

【参考ページ】 [悪文の原因 読みやすい文章を書くために](#)

【参考ページ】 [パラグラフの重要性と書き方](#)

4. データの収集にかかわる技法

卒論の材料の集め方にかかわる技法です。大きく分けると、1) 文献資料を集める方法と、2)
フィールドワークによって資料を集める方法に分けることができます。文献資料は1次資料と2次
資料に分けることができます。フィールドワークには参与観察、聞き取り、アンケートなどの方法
があります。研究のテーマによって必要となるデータの種別は変わってきますが、ほとんどの場
合、複数の種類のデータを収集する必要があります。当然のことながら、先行文献の収集はどの
ような研究テーマでも必要となります。また、現地(インドネシア)に行かなければデータが入手で
きない研究テーマの場合は、現地に行く時期や予算、データの収集方法なども計画しておく必要
があります。

5. パソコンの使用にかかわる技法

卒論の作成にパソコンの使用は必須です。とくに、ワード(ワープロソフト)の使い方に慣れておく
ことは大切です。ワードにはたくさんの機能がありますが、タブ、インデント、スタイルシート、セク
ション、注などの機能を使いこなせるようになると作業がはかどります。ほかに、研究テーマに
よっては、エクセル(表計算ソフト)や画像処理ソフトを使う必要が生じることがあります。学生時
代に身に付けておくと、卒業後も役にたつ技法です。

6. データの分析にかかわる技法

これはデータの種別と性格によって異なります。さらに、データの種別と性格は、研究のテーマに
よって異なります。大学に歴史学、社会学、文化人類学といった学問分野が存在するのは、それ
ぞれの研究テーマに特有のデータの種別と性格があり、データの特性に応じた分析方法が工夫
されてきたという歴史的経緯に理由があります。したがって、この点についてはゼミだけではカ
バー仕切れないので、専門分野の授業でしっかりと学んでおくことが必要です。地域研究では、
さらに地域の言語の習得と文化の理解という条件が加わります。